

音楽科



山田 駿 川野 侑理彩

研究の概要

【音楽科学習でめざす子どもの姿】

- 音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取ったり、表現に対する思いや意図をもったりし、仲間が音や音楽をどのように捉えているのかについて関心をもつ姿
- 自分が音や音楽をどのように捉えたのかについて、音楽を形づくっている要素とその働きや、これまでの学びや経験と結び付けて表す姿
- 仲間の「観」と自分の「観」との共通点や相違点、その背景を基に、自分の「観」を広げ、表現を工夫したり、音楽のよさや面白さ、美しさを見いだしたりする姿

【問題意識】

自分の「観」を表出することにおける課題

音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取ったり、表現に対する思いや意図をもったりする姿が見られる。一方で、自分が音や音楽をどのように捉えたのか、その理由について、音楽を形づくっている要素とその働きや、これまでの学びや経験と結び付けて表すことに課題がある。

自分の「観」を広げることにおける課題

仲間の表現や感じ方に関心をもち、互いの考えを伝え合う姿が見られる。一方で、仲間の「観」と自分の「観」との共通点や相違点、その背景などを自分とのかかわりで捉え、自分の音や音楽の捉え方を広げることには課題がある。

【研究内容 1】

「おながくレンズ」を手掛かりに、自分の「観」を広げるための手立て

1 「おんがくレンズ」を手掛かりに、自分の「観」を広げるための手立て

音楽科における「観」とは、「これまでの学びや経験を基にした、音や音楽の捉え方」である。ここで言う学びや経験には、音楽を形づくっている要素とその働きについて学んだことや、音や音楽とかかわる中で生まれたイメージや感情、生活や文化とのかかわりなどが含まれる。また、音楽科における多様な「観」を愉しむとは、仲間の多様な「観」を感じることで、自分では気付かなかった感じ方や表現の仕方に気付き、自分の「観」を広げることである。

子どもが自分の「観」を広げるためには、まず、自分が音や音楽をどのように捉えたのかを表すとともに、なぜそのように感じ取ったり、なぜそのように表現したいと思ったりしたのかを表すことを通して、自分の「観」を自覚することが必要である。そこで、今年度は、自分の「観」を表出させることに重点を置き、その手掛かりとして「おんがくレンズ」を活用する。

「おんがくレンズ」【図1】は、子どもが自分の「観」を表出・自覚し、広げる際に、必要に応じて参照し、活用する手掛かりとなるものである。子どもが必要なときにいつでも参照できるよう、手元に準備するとともに、教室にも掲示する。

まず、自分が音や音楽をどのように捉えたのかを表すことができるよう、「楽しい」「静かな」等の音楽の感じを表す言葉や、「足踏みをする」「体を揺らす」等の体の動きのカードを用意する。子どもは、自分の捉え方に合うものを選んだり参考にしたりしながら、自分が音や音楽をどのように捉えたのかを言葉や体の動きで表す。

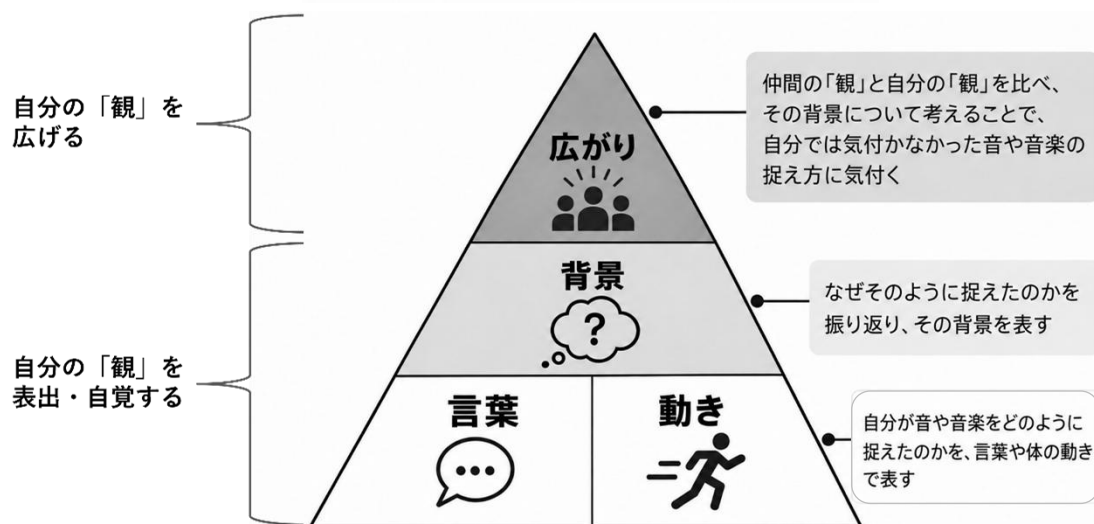
次に、なぜそのように捉えたのかを明らかにすることができるよう、「音楽のどこからそう感じ取ったのか」「何かに似ていると感じたか」「音楽を聴いて思い出したことはあるか」等の考える視点のカードを用意する。子どもは、それらの問いを基に自分の捉え方を振り返り、音楽を形づくっている要素とその働きや、これまでの学びや経験に目を向けながら、なぜそのように捉えたのか、その背景を表す。

さらに、授業の中で自分の「観」を広げることができるよう、仲間の「観」と自分の「観」との共通点や相違点、その背景に目を向けるための、考える視点のカードを用意する。子どもは、それらの問いを基に、仲間の「観」と自分の「観」を比べたり、その背景について考えたりすることで、自分では気付かなかった音や音楽の捉え方に気付く。

これらの視点を手掛かりにさせることで、音楽を形づくっている要素とその働きや、自分のこれまでの学びや経験に目を向け、なぜそのように音や音楽を捉えたのかを明らかにし、自分の「観」をより具体的に表したり、自覚したりすることができるようにする。

「おんがくレンズ」については、示した言葉や視点を選択肢として限定せず、さらに、子どもが見付けた言葉や視点についても必要に応じて共有し、「おんがくレンズ」として活用できるようにする。こうして一人一人が自分の「観」を表出し、自覚することを、仲間の多様な「観」を感じながら自分の「観」を広げていくための基盤とする。

「おんがくレンズ」の構造



【図1 「おんがくレンズ」の構造】

1 題材名

うたで まねっこ

2 題材の目標及び評価規準

A 表現(1)ア、イ、ウ 【共通事項】 (1)ア、イ		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
曲想と音楽の構造とのかかわりや曲想と歌詞の表す情景や気持ちとのかかわりについて気付き、思いに合う表現をするために必要な歌う技能を身に付けることができる。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら聞き取ったことと聞き取ったこととのかかわりについて考え、どのように歌うかについて思いをもつことができる。	歌うことに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
① 曲想と呼びかけとこたえとのかかわり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとのかかわりに気付いている。 ② 思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌う技能を身に付けている。	① フレーズや呼びかけとこたえなどを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取って仲間に伝えている。 ② 聞き取ったことと聞き取ったこととのかかわりについて考え、どのように歌うかについて思いをもち、表現している。	① 聴き合って歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

3 題材について

本題材は、曲想と音楽の構造とのかかわりについて気付くとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌う技能を身に付け、どのように歌うかについて思いをもって表現することをねらいとしている。

教材曲「もりのくまさん」は交互唱に親しみ、相手の声をよく聴き合いながら、子どもたちが楽しんで歌うことのできる教材である。また、曲にストーリー性がありそれぞれの歌詞から情景を思い浮かべやすい。教材曲「フルーツケーキ」は3拍子の揺れを感じながら、言葉のリズムを生かして歌うことのできる教材である。そのため、子どもたちがかけ合いの工夫をしたり、言葉を変えたりしながら思いをもって表現する姿が期待できる。

本題材を学習することは、音楽を自らの生活やイメージと結び付け、仲間と伝え合うことを通して、どのように歌うかについて思いをもち、仲間と表現する楽しさを味わうことができ、意義深い。

4 子どもについて

子どもはこれまでに、音に合わせて体を動かしながら音楽を表現したり、仲間と曲に対する思いを伝え合うことを通して、強弱の工夫をしながら表現したりすることについて学習してきた。題材「どれみとなかよし」では、ドレミの音が作り出す音の高さの変化の面白さを感じ取り、体を動かして楽しむ姿が見られた。また、題材「どんなうたいかたができるかな～こぶたぬきつねこ～」では、呼びかけとこたえの音楽の仕組みに気付き、交互唱を楽しむとともに、情景に合わせた歌い方について、強弱に気を付けて表現することができた。一方で、表現の工夫について話し合う際に、思いや意見だけを伝える姿が見られるため、「～だから～したい。」といった根拠を基に話すことについて継続して指導している。また、音楽を聴いて感じ取ったことを伝えることに課題があり、伝えるための言葉や動きを今後学習していく必要がある。

本児は、体を動かして表現をしたり、絵を描いて表現をしたりすることが大好きな子どもである。音楽科学習にも非常に意欲的であり、音楽が流れると自ら体を動かしながら音楽を楽しむ姿が見られる。一方で、仲間に自分の表現を伝えることになると、「恥ずかしいな。」「分からない。」とつぶやくなど、自分の表現に自信をもてない姿や、うまく表現できずに伝えられない姿が見られる。このことから、本児は音楽を体で感じることはできるが、感じ取ったことを表すことに対して苦手意識があると考えられる。本時では、表現するための「おながくレンズ」を手掛かりに話し合いを進めることを通して、仲間に言葉や動きで音楽について自分が感じ取ったことを伝える姿を期待したい。

5 研究内容

本題材における、多様な「観」を愉しむ子どもの姿

音楽が生み出すよさや面白さを感じることを通して、どのように歌うかについて思いをもち、仲間と表現について伝え合う姿。

1：「おながくレンズ」を手掛かりに自分の「観」を広げるための手立て

本題材では、曲想や歌詞から情景を思い浮かべ、曲の感じをつかむ際に「おながくレンズ」を活用する。また、「おながくレンズ」の言葉や動きを基に、仲間と表現について伝え合う場面を設定することで、音楽に対する思いを深め、感じ取ったことを仲間に伝えることができるようにする。

本時では、教材曲「もりのくまさん」において、思いに合った表現を話し合う際に「おながくレンズ」を活用する場面を設定する。「おながくレンズ」の中から単に言葉や動きを選択するのではなく、子ども自身が見つけた言葉や新たに生み出した動きも「おながくレンズ」に加えていくことで、一人一人の多様な思いや表現を表出させることができるようにする。また、「おながくレンズ」を手掛かりとする際に、根拠となる経験や自分のイメージを想起する時間を設定することで、自分の表現に対して思いをもつことができるようにする。「おながくレンズ」を用いて、自分の生活経験等とを結び付けながら「観」を表出したのちに、仲間の「観」にもふれることを通して、自分の「観」を広げ、仲間と表現について伝え合う姿を期待したい。

6 題材指導計画（4時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師の手立て	知・技	意・情・美	態
生み出す (1)	1 「もりのくまさん」の曲の感じを捉える。〈1時間〉 ○ 呼びかけとこたえ ○ 曲が表す情景	○ 曲の歌詞についてペープサートを用いて表すことで、自身の生活等と結び付けながら、曲想を捉えることができるようにする。	①		記述分析 行動観察
本時 1/2	2 「もりのくまさん」の歌い方を工夫する。〈1時間〉 ○ 曲に対する自分の思い ○ 動き方の工夫	○ 「おながくレンズ」を手掛かりに曲について考えさせることで、曲の感じを言葉で表現することができるようにする。 ○ 自分の思いを伝え合う場面を設定することで、仲間の思いにふれ、仲間の思いも合わせた表現の工夫を考慮することができるようにする。 ○ 動き方の工夫をする際に動きの「おながくレンズ」を手掛かりとすることで、同じ動きでも人によって違う動き方になることに気付き、新たな動きの工夫を考慮することができるようにする。		②	発言分析 行動観察
挑む (2)	3 「フルーツケーキ」を歌い、表現の工夫を考える。〈1時間〉 ○ 呼びかけとこたえ ○ いろいろなリズム ○ リズムの工夫	○ フルーツの名前をリズムで打ちながらつなげて遊び仲間とリズムリレーをする活動を設定することで、いろいろなリズムの打ち方について親しみ、仲間と表現する楽しさを味わうことができるようにする。 ○ グループでリズムの工夫を考える時間を設定することで、仲間の表現にふれ、仲間の考えや表現を取り入れることができるようにする。		①	行動観察
生かす (1)	4 「〇〇フルーツケーキ」を歌い、表現の工夫を楽しむ。〈1時間〉 ○ 仲間のリズムの工夫	○ フルーツケーキの歌をつくる際、自分とは違うフルーツを選んだ仲間とグループを編成することで、自分の思いや仲間の思いを取り入れながら表現の工夫をすることができるようにする。	②		① 行動観察

7 本時の目標

曲に対する自分の思いをもち、思いに合った歌い方を考え、仲間に伝えることができる。

8 本時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	教師の手立て
1 前時を思い出し「もりのくまさん」を歌う。 ○ 呼びかけとこたえ ○ 曲が表す情景 ○ 本時のめあて 曲を感じながら、動き方を工夫しよう。 2 曲に対する思いをもつ。 ○ お気に入りの歌詞（1番から5番） ○ 曲から感じ取ったこととその理由 ・「お逃げなさいと言われたらすぐ逃げなきゃと思うから慌てている感じがするよ。」（2番） ・「最後のラララと歌っているところは、明るくて楽しい感じがする。」（5番） 「おながくレンズ」言葉 ・楽しい ・悲しい ・明るい ・暗い ・元気な ・はずんだ ・ゆったりとした 等 3 曲に対する思いを基に、歌い方の工夫を考える。（★） ○ 動き方の工夫（個人→グループ） ・「きっと走っていると思うから足踏みをしながら歌おう。」（2番） ・「歌っている感じがするから体を揺らして歌おう。」（5番） 「おながくレンズ」動き ・体を揺らす ・足踏みをする ・手をつないで揺らす・ステップを踏む 等 4 本時学習を振り返る。 ○ 本時学習の成果 ・「みんなで考えたときに足踏みの速さが違ったら、どの速さがよいか考えることができた。」（2番） ・「仲良く楽しい感じで歌いたかったから体を揺らしてみたけど、手も繋いで歌ったらもっと楽しくなった。」（5番）	○ 曲の歌詞についてイラストを掲示しておくことで、曲が表す情景について想像することができるようにする。 ○ 前時に自分が選んだお気に入りの歌詞の部分について、表現の工夫を考えることを伝えることで、歌詞に対して焦点化して思いをもつことができるようにする。 ○ 曲から感じ取ったことを「おながくレンズ」を手掛かりに考える時間を設定し、なぜそのような感じがしたのか問うことで、自分の生活やイメージとつなげることができるようにする。 ○ 歌い方の工夫をするフレーズを最後のみんなで一緒に歌うフレーズに限定することで、思いと歌い方を結び付けながら、表現の工夫について具体的に考えることができるようにする。 ○ 「おながくレンズ」を基に個人で考える時間を設定することで、表現の工夫を一人一人がもち、仲間に伝えることができるようにする。 ○ 自分で考えた動き方を仲間と試し、歌う活動を行う際に仲間と自分の動きの違いに注目するよう促すことで、仲間との違いにふれ、曲に合った動き方を考えることができるようにする。 ○ 動きの「おながくレンズ」を手掛かりにさせることで、同じ動きでも人によって動き方が変わることに関心、新たな動きを見付けたり、仲間の動きのよさに気付いたりすることができるようにする。 ○ 本時学習の成果を一人で考えた時と仲間と考えた時で比較しながら振り返らせることで、仲間と表現を考えるよさや、一緒に歌うことの楽しさに気付くことができるようにする。

9 本時の評価規準

曲から感じ取ったことを基に思いに合った表現の工夫を考え、仲間に伝えている。

（思考・判断・表現②）【発言分析・行動観察】

10 本時の板書

9月28日(月) きょくをかえしながら、うごきかたをくふうしよう。よびがけとこたえ

1 いはん 2 いはん

あるひ	あるひ	もりのなか	もりのなか
くまさん	くまさんに	であつた	であつた

はな さく もりの みち くまさんに であつた

どんなんかんじ? うごき

あかるい げんき あるきながらまわる

挿絵

3 いはん

ところが	ところが	くまさんが	くまさんが
あどから	あどから	ついてくる	ついてくる

とことこ とことことと とことこ とことことと

どんなんかんじ? うごき

あせっている いてる てとやうしてあるく

挿絵

5 いはん

あらくまさん	あらくまさん	ありがと	ありがと
おれいに	おれいに	うたいましょ	うたいましょ

らうら らうら らうら らうら らうら らうら

どんなんかんじ? うごき

わくわく よこにゆらゆら てとうごがす

挿絵

5 いはん 7 いはん 10 いはん

くまさんの	くまさんの	いうことにや	いうことにや
おじょうさん	おじょうさん	おにげなさい	おにげなさい

すたこら さっさささのさ すたこら さっさささのさ

どんなんかんじ? うごき

たのしい つながてあるく

挿絵

5 いはん 7 いはん 10 いはん

おじょうさん	おじょうさん	おまちなさい	おまちなさい
ちよっと	ちよっと	おとしもの	おとしもの

しろい かいがらの ちいさな いやりんぐ

どんなんかんじ? うごき

ありがとう あいみじながらるる みんなでステップ スキップしながら おほしま

挿絵